

大阪大学大学院 正会員 新田 保次
 兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所 杠 典英
 大阪大学大学院 学生員 都 君變
 大阪大学大学院 学生員 P. Kyophilavong
 大阪大学工学部 学生員 ○猪井 博登

1. はじめに

高齢者や障害者の社会参加を促し、安定し、活力ある社会を構築するため、高齢者や障害者が容易に利用できる交通システムの構築が課題となっている。その新たな交通システムの1つに、ノンステップバスがあり、近年、全国各地で導入が進んでいる。

ヨーロッパでは、1980年代からノンステップバスが導入されているが、日本では、1997年3月より国産化され、東京や大阪などで運行が開始された。以後、導入事業者も増え、1998年7月には170台以上が導入されている。今後も、ノンステップバスの導入が進むと予測されるが、ノンステップバス車両については、座席の配置や車両後部の床面の処理形状など、様々な仕様が存在し、模索している段階であるといえる。

そこで、現在運行されているノンステップバスが、どのように利用され、どのように評価されているかを把握することを、主な目的として本研究を行うことにした。これにより、今後のノンステップバスのサービスのあり方に、重要な示唆が得られると考えられる。

2. アンケート調査の概要

尼崎市交通局は、1998年4月に11台のノンステップバスを導入し、3路線1日当たり73便のノンステップバスを運行しており、今後、車両更新時には、全てノンステップバスを採用してゆく方針を決めている。

そこで、本研究では、導入から日は浅いが、尼崎市の高齢者、身体障害者(以後、身障者と略す)を対象にノンステップバスの利用と評価に関するアンケート調査を1998年11月に実施した。

高齢者に対するアンケート調査は、尼崎市内の老人クラブの会長396人に対し調査票を郵送し、297人から回答を得た(回収率75.0%)。身障者に対するアンケート調査では、尼崎市身体障害者団体に所属する会員に同団体を通じ、150人に配布していただき、133人からの回答を得た(同88.7%)。ともに、回収は郵送回収とした。

3. 調査結果

(1) ノンステップバスの利用現況

ノンステップバスの利用経験の有無を調査した結果を図-1に示す。高齢者に比べ、身障者の方が高い値を示しており、ノンステップバスに対する関心の高さがうかがえる。ノンステップバスを利用しない理由は、高齢者においては、「自分が利用する路線に導入されていない」(26.9%)と、「自分が利用する時間と運行時間が合わない」(22.8%)と答えた人が多く、外出行動と運行システムが合わないため利用できない人が多いと考えられる。一方、身障者においては、「自分が利用する路線に導入されていない」(23.4%)「自家用車を利用するため」(23.4%)と答えた人が多い。

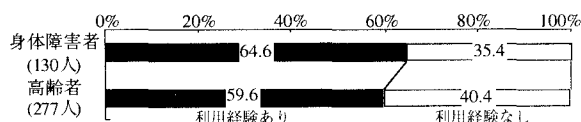


図-1 ノンステップバスの利用経験の有無

ノンステップバスの利用頻度を図-2にまとめた。身障者の方が高齢者に比べ、ノンステップバスの利用頻度が高い。

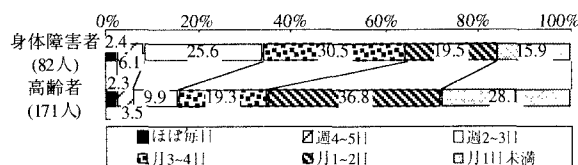


図-2 ノンステップバスの利用頻度

特にノンステップバスを選んで乗っているかを把握するため、ノンステップバスの運行時間に合わせてバス停へ行くかを調査した結果を図-3に示す。身障者はおよそ半数がノンステップバスを特に選んで乗っていることがうかがえる。

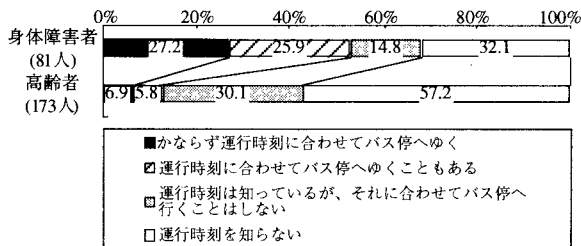


図-3 ノンステップバスの選好性

(2) ノンステップバスのサービスに対する満足度

ノンステップバスで提供されているサービスに対する満足の程度について分析した。ここでは「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらとも言えない」を0点、「やや不満足」を-1点、「不満足」を-2点として満足の度合を点数化し、高齢者・身障者別に集計したものが図-4である。

「階段のない出入口」に対しては、かなり多くの人が満足しており、ノンステップバスに対し好意的な評価していることがうかがえる。一方、「運行本数」「座席の数」については不満足の方がやや上回る結果となった。しかし、「運行本数」については、前述の通りに今後ノンステップバスの導入が進めば、解消されると思われる。

(3) ノンステップバス導入の効果

ノンステップバスが運行されたことによる外出頻度の変化について調査した結果を図-5に示す。外出頻度が増えた人は、身障者で31.6%高齢者で10%となった。身障者においては、4割以上外出頻度が増えたと答えた人もおり、ノンステップバスの導入が外出行動に強く影響を与えたことがうかがえる。

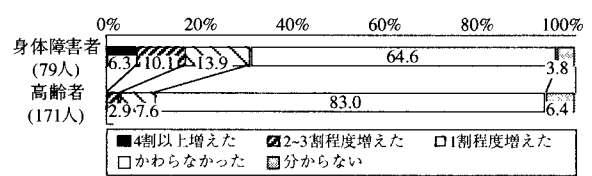


図-5 ノンステップバスの選好性

(4) ノンステップバスの導入希望

ノンステップバスの今後の導入に対する希望を調査した結果を図-6に示す。身障者・高齢者ともに8割以上の人が今後の導入の継続を希望している。

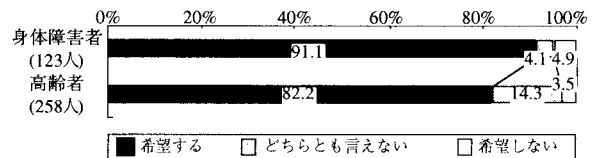
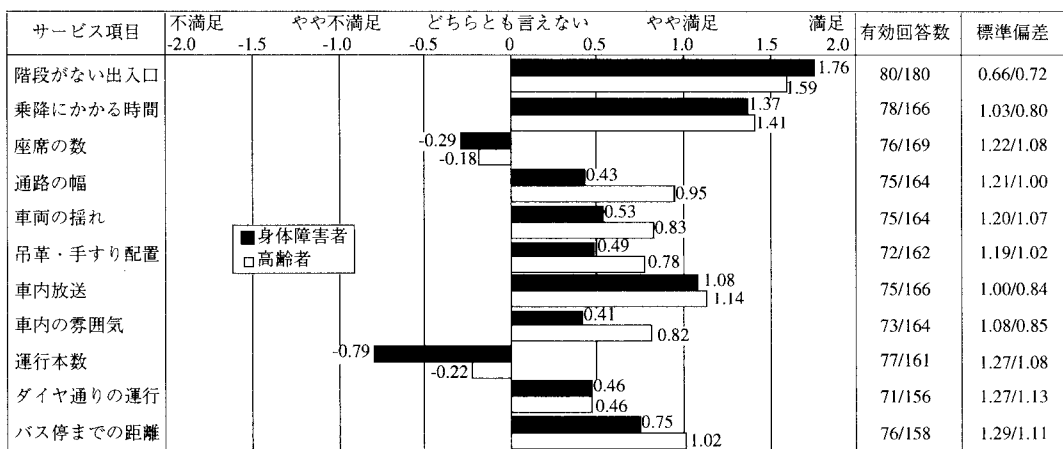


図-6 ノンステップバス導入継続に対する意見

4. 結論

今回の調査は、ノンステップバス導入の初期段階で行われたが、高齢者、身障者ともにノンステップ化を好意的に受けとめており、今後のノンステップバスの導入が継続されることを希望する傾向が強いことが分かった。また、特に、身障者に対しては、外出頻度の増加において、ノンステップバスの効果が見られた。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり多大なご支援・ご協力をいただいた尼崎市老人クラブ連合会、尼崎市身体障害者団体、尼崎市交通局に対して心から謝意を表します。



注) 有効回答数および標準偏差は、身体障害者/高齢者別に計算したものである

図-4 ノンステップバスのサービスに対する満足度